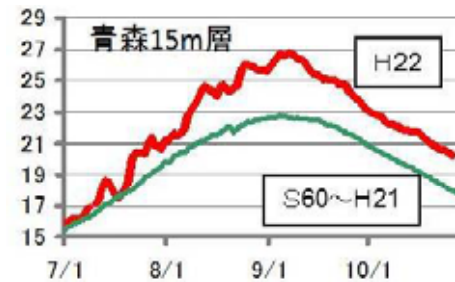


猛暑時のホタテガイへい死率を低減する養殖生産技術の開発

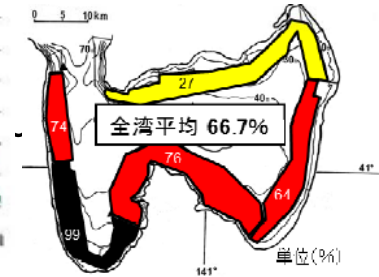
(2011～2013年度)

共同研究機関: (地独) 青森県産業技術センター・水産総合研究所(中核機関)、(国) 東北大学理学研究科・農学研究科、(国) 北海道大学大学院水産科学研究院、いであ株式会社、(独) 水産総合研究センター・東北区水産研究所、宮城県水産技術総合センター
普及支援担当: むつ湾漁業振興会

研究概要: 2010年における大気や海洋の相互作用を解析することにより、異常高水温の発生メカニズムを解明し、水温予測技術を開発する。また、陸上水槽で水温、酸素量、流れ、塩分等の耐性を調べてホタテガイのへい死メカニズムを解明するとともに、実際ホタテガイの養殖が行われているフィールドにおいて、ホタテガイの適正な生育環境を解明する。この両面から得られた結果に基づき、高水温被害を低減(へい死率を半分(35%)以下)する新たな養殖生産技術を開発する。



夏期の海水温の推移(陸奥湾)



陸奥湾の海域別へい死率

課題提案者の感想: 産学官連携コーディネーターの支援に対して



青森県産業技術センター
水産総合研究所
吉田 達

課題の提案にあたっては、東北ハイテク研究会、農林水産省の主催により開催された「産学官連携セミナー」(平成23年1月)における技術会議事務局の方の説明、それに引き続き開催された「産学官連携共同研究検討会議」(平成23年2月)における産学官連携コーディネーターによる個別相談会が非常に有益でした。

採択に至ったのは、応募に際しての留意点(説明にストーリー性を持たせる、アウトプットを明確に)等についての助言など産学官連携コーディネーターの支援があったからだと思っています。